

スイスアルプス、グリムゼル峠、早朝の目撃。

他人さんの車ではない。**大切な相棒**。一夜にして、こんな状態になった。
驚き。昨夜の状況では、まったく、考えられないこと。果たしてどうしたものか。
イタリア国境沿い、**ヌーフエネン峠を経て、サンモリッツへ行く道中**だった。
私は、**峠や国境、辺境**が大好きで、グリムゼル峠にさしかかった。
景観も立地も、私の好みに合う。またまた、道草。素晴らしい光景の画像記録が残せた。

峠を北に下りたところに**三叉路**がある。天候も悪くなかった。

右は、**ルツエルン**、左は、**インターラーケン**。

車には、食料も積み込んでいた。装備も十分に準備しているつもりだった。

この峠を中心に、東に西に、南に北へと、今一度探訪を重ねたいと、

軽く考えていた。スイスの数多い峠越えの中でも、

グリムゼル峠や周辺の峠は、

冬は、十数メートルの積雪で、通行不能になる。

夏の3ヶ月間だけ、

精一杯の美しさを見せるらしい。たまたま、いい天気が続いていたので油断。

やはり山岳地帯。季節も季節、いい天気が続くはずがない。

ある程度の危険、天候、降雪、寒気等々、未知との遭遇は、甘受する**覚悟**は出来ていた。

準備もしてきているが、道草が長かった。時は、6月12日、金曜日だった。

にわかに雲が集まり、峰々をおおいつつみ、空は雪雲になった。

そして、その**豹変**には驚かされた。**雪が降り出して、痕跡をすべて消し去ってしまった。**

視界は、数メートルに限られてしまい、雪は激しくなる一方。

何度か、往復しているので、道路の事情は把握しているつもりだった。

想定外の天候急変。自然は恐ろしい。こうした状況になると、パニックになるもの。

ラッキーは、続いた。

宿かレストランかわからないが、**ボ〜と建物の幻影**が現れた。

どんな状況かわからなかったが、駐車スペースがあった。

緊急避難が急務。駆け込んだ。管理人？の老人が一人。**食堂も閉鎖。今はオフタイム。**

外の様子を見ながら、老人は、黙って受け入れ、部屋に案内してくれた。

外の様子はというと、**嵐のように荒れ狂い**、夕刻から、ますます激しくなって、

一歩も外に出られない、状況になった。

宿？のおじさんは、平気な顔をして、淡々と仕事をしている。

食事の準備かもしれない。

こうした状態におかれた時、あたたかい「暖」があり、

あたたかい「食」があるのは、なんと有り難いことか。料理の美味しかったこと。

おじさんの心使い。感謝とかの言葉では不十分。

外は吹雪というより、嵐ではないか。

二重にガードされた鉄格子の窓に、ビュービューとたたきつける

風雪の音が、聞こえてくる。**一晩中、吹き荒れた**。翌朝も、ラッキーが続いた。

昨夜の嵐が嘘のよう。小窓から、光が差し込み、朝になっていた。

好天気だった。早速、飛び出したのは言うまでもない。

台風一過の後、晴天だけでは、見られないような、**さわやかな光景**。

この瞬間を体感したいと、常々願っていた。**ラッキー、スマイル、オン、ミー**。

犬は喜び、野をかけまわるではないが、画像記録に、飛び回った。

一通り目的を達し、宿に戻った。

この後の**あたたかい一杯のコーヒーは、最高**だった。

両手で、カップから暖をとるように持ち、口に運ぶ。**最初の一口がこたえられない**。

朝食が終わると、再び戸外へ。そうだ、車があったのだ。

子供の頃、車は憧れの的。特に**外車**は、**夢のまた夢**だった。
この時は、憧れの一つ、フォード車だった。
氷の塊が張りついた車を見て、不安がよぎった。**昨夜、ケアする間もなかった。**

バッテリーが、あがってしまっているのではないか、
心の中は、**不安**でいっぱい。**思わず手を合わせ、神様に祈った。**
なんと表現したらいいのだろう。**もの見事に、一発で始動。**しげしげと車を見た。
正面から見ると、「厳しい冬そのものの作品」のように見えた。
このさわやかな朝の光景が、そのまま作品になった。

京都ホテルオークラ、11月、1ヶ月の個展に出品。
横3メートル、縦2メートル、の作品にして展示させていただいた。
評判になった。偶然の経緯で、現在のトヨタ自動車、第11代目、**豊田章男社長**から、
フォード社の会長、ウィリアム・フォード氏に寄贈されることになった。
そして、作品が、アメリカのフォード社へ。

寄贈時、作品のデプリカを前に、**お二人のツーショット。**
サイン入りの記念写真をいただいた。
私の**宝物**。今も手元に。そして、**和紙夢絵への挑戦を本格化**させることになった。
なかなか予測できないことが起こるのが、人生らしい。
いい思い出は心の財産。その後、「地球4周ひとり行脚」の本を、**2,000冊**出版。
この本の、第7章、159ページにも、少し触れている。
みなさんのご支援で、**1,900冊は完売**。今、手元に約50冊の在庫。

今更でなく、人生まだまだ、これから夢挑戦。
今現在、活動している、**国内外の旅や画像記録**が、5~10年後に役立つと信じて、
精力的に、相変わらず、日々活動、積み重ね中。
いささか気持ちが、ゆれた時もあるが、継続は力なりと、自分自身を鼓舞。
脱皮しない日は、死ぬという。気持ちを切り替えて、
創意工夫、楽しく頑張っているところ。

下記は、産経新聞の書評。



いろいろな方々、皆様のサポートで今日がある。信頼を裏切らないようにという
気持ちだが、人一倍強い。幼少のニックネームは、「がんちゃん」
頑張りのがん、頑固のがん、らしい。

ここまでくると、失うものは何もない。**もし、確かなものがあるなら、**
それは、今まで積み重ねてきた自分自身。心身健康なら、まだまだ、積み重ねが可能。
マイペースで、全力投球。面白く、楽しく、創意工夫して、頑張りたい。

今も、勝手なことを書かせてもらっているものの、
友人の一言『目立たず目立つ』の**アドバイス**。反省を兼ねて、掲載。
今の状況で、つづけられれば、幸いだが ????????